

■ 2017年度 免許状更新講習シラバス

講習の区分		必修
講習名	【A】教育の最新事情	
日程/会場	2017年8月7日 /会場：後日お知らせします	
担当者	人間科学部多元心理学科教授 川瀬正裕 ① 人間科学部現代子ども学科教授 増田公男 ②③ 人間科学部現代子ども学科教授 及川秀一 ④	
講習概要	① 特別支援教育の理念と背景にある課題と教師のスキルとしてのカウンセリングマインドの意義を取り扱う。 ②③ 発達関連諸科学や種々の資料に現れた子どもの現状と、居場所づくりを通しての集団活動の意義や効果を講義する。 ④ 制度・統計・教師や親の声から、今子どもに必要なことを考え、授業に新たな一滴を秘めて臨む教師像を追う。	
講習時間割	【担当者】①：川瀬 ②③：増田 ④：及川 ①9:00～11:00（120分） 10分休憩 ②11:10～12:10（60分） 昼休み ③13:10～14:10（60分） 10分休憩 ④14:20～16:20（120分）	
担当者からのお知らせ	特にありません	

講習の区分		選択必修領域
講習名	【B1】幼児教育と小学校教育の学びの連続性	
日程/会場	2017年8月8日 /会場：後日お知らせします	
受講対象	学校種	幼稚園
	免許教科等	特定しない
	職務経験	特定しない
担当者	人間科学部現代子ども学科教授 坪井貴子	
講習概要	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂を受けて、まずそれぞれの要領および中央審議会答申の内容を踏まえ、今後の教育のあり方を確認する。そして、その中でも幼児教育と小学校教育の関連がこれまで以上に具体的に示されているので、それを取り上げ検討する。また、小学校教育における生活科は幼小をつなぐ教科として位置づけられているので、幼稚園の先生方に生活科で子どもたちが何をどのように学ぶのかを知っていただくことにより、その後の子どもの育ちを見通した保育に役立ててもらいたい。	
講習時間割	① 9:00～10:30（90分） ② 10:45～12:15（90分） 昼休み ③ 13:15～14:15（60分） ④ 14:25～15:25（60分） ⑤ 15:35～16:35（60分） 試験と事後評価	
担当者からのお知らせ	特にありません	

講習の区分	選択必修領域	
講習名	【B2】道徳教育基礎講座	
日程/会場	2017年8月4日 /会場：後日お知らせします	
受講対象	学校種	中学校
	免許教科等	特定しない
	職務経験	特定しない
担当者	人間科学部現代子ども学科教授 原田琢也	
講習概要	この講座は、「今まで道徳教育にあまり熱心に取り組んでこなかったが、『道徳の教科化』を前にして、これからがんばってやっていこう」という先生方を対象とした道徳教育の入門講座である。本講座では、まず、学習指導要領、道徳教育の歴史、授業理論などの基礎的事項を確認する。その後、文部科学省発行の『私たちの道徳』（中学校用）の読み物資料を使い、指導案づくりの実習を行う。	
講習時間割	① 9:00～10:30 (90分) ② 10:45～12:15 (90分) 昼休み ③ 13:15～14:15 (60分) ④ 14:25～15:25 (60分) ⑤ 15:35～16:35 (60分) 試験と事後評価	
担当者からのお知らせ	当日は、文部科学省『私たちの道徳』（中学校用）をお持ちください。	

講習の区分	選択必修領域	
講習名	【B3】統合的な英語授業の方法について	
日程/会場	2017年8月8日 /会場：後日お知らせします	
受講対象	学校種	中学校、高等学校
	免許教科等	英語
	職務経験	特定しない
担当者	文学部英語英米文化学科准教授 種村俊介	
講習概要	本講習は、英語の各技能をバランスよく伸ばす指導法を身につけることを目標とする。そのために、技能統合型の理論的背景を踏まえ、プレリーディング指導、内容理解の指導、音読の指導、ポストリーディング指導、多読指導などについての理解を深め、各受講生の教育現場にふさわしい授業の方法について考える。	
講習時間割	① 9:00～10:30 (90分) ② 10:45～12:15 (90分) 昼休み ③ 13:15～14:15 (60分) ④ 14:25～15:25 (60分) ⑤ 15:35～16:35 (60分) 試験と事後評価	
担当者からのお知らせ	当日は、現在授業で使用されている教科書を必ずお持ちください。※現在教えられていない先生は今後使用される予定の教科書(中・高生対象のもの)をお持ちください。	

講習の区分	選択必修領域	
講習名	【B4】ICTを活用した教科指導と情報モラル指導	
日程/会場	2017年8月3日 /会場：後日お知らせします	
受講対象	学校種	小学校、中学校、高等学校、特別支援
	免許教科等	特定しない
	職務経験	特定しない
担当者	国際情報学部国際情報学科教授 長谷川元洋	
講習概要	午前中にタブレットPC等を活用した授業作りに関する講義と演習を行い、午後に情報モラル教育に関する講義と演習を行う。なお、事前に無理なくできる「学校のICT活用—タブレット・電子黒板・デジタル教科書などを使ったアクティブ・ラーニング」（学事出版）を読まれた上で受講することをおすすめする。	
講習時間割	① 9:00～10:00（60分）（講義）教育の情報化に関する講義 ② 10:15～11:45（90分）（演習）ICTを活用した授業の構想と発表 昼休み （午後はPCルーム使用） ③ 12:45～13:45（60分）（講義）情報モラルに関する講義 ④ 14:00～15:30（90分）（演習）指導案作成演習 ⑤ 15:40～16:10（30分）（発表） ⑤ 15:40～16:40（30分）（試験、アンケート）	
担当者からのお知らせ	「学校のICT活用—タブレット・電子黒板・デジタル教科書などを使ったアクティブ・ラーニング」（長谷川元洋（著、監修）、松阪市立三雲中学校（著、編集）学事出版 ¥1,944）を読まれた上で受講されることをお勧めします。（お近くの書店やネット上の書店、学事出版に注文すると購入できます） 持ち物：学校で使用されている教科書、資料集等（午前中のICT活用授業の構想で使用します）。タブレットPCまたはスマートフォン（可能ならば、事前にフリーソフト miyagi touch(電子黒板の機能を備えたアプリ、iPad、Android、Windows タブレット対応)をインストールしてきて下さい。なお、このアプリはiPhoneには未対応です。）	

講習の区分	選択領域
講習名	【C1】子ども理解と家族支援
日程/会場	2017年8月3日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	教諭
主な受講対象者	幼稚園教諭
担当者	人間科学部現代子ども学科教授 上村千尋
講習概要	近年の子育て家族を取り巻く現状や子どもの育ちをめぐる諸課題などに触れつつ、家族が社会的支援を必要とする背景や要因について理解を深める。更に、虐待や貧困など保護を必要とする子どもや特別な配慮を必要とする子どもへの支援のあり方、保護者との関係づくりや他の専門機関との連携のあり方等について学んでいく。また、演習を通して受講者が抱えている困難事例等を共有し、相談支援の方法論を実践的に学習する。
講習時間割	① 9:00～10:30 (90分) ② 10:45～12:15 (90分) 昼休み ③ 13:15～14:15 (60分) ④ 14:25～15:25 (60分) ⑤ 15:35～16:35 (60分) 試験と事後評価
担当者からのお知らせ	特にありません

講習の区分	選択領域
講習名	【C2】子どもの遊びと発達～運動能力の発達という観点を中心として～
日程/会場	2017年8月2日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	教諭
主な受講対象者	幼稚園教諭
担当者	人間科学部現代子ども学科准教授 日比野直子 山梨学院大学スポーツ科学部教授 谷口裕美子
講習概要	昨今子どもの体力低下が問題となっている。その背景には、子どもたちを取り巻く環境の変化があることは自明のことである。この課題に対して、園にできることは一体何だろうか。本講座では、子どもの運動能力の発達という観点から、日常生活における遊びの有効性について再認識し、ふさわしい保育の在り方を考察する。
講習時間割	① 9:00～10:00 (60分) ② 10:15～11:15 (60分) ③ 11:25～12:25 (60分) 昼休み ④ 13:20～14:20 (60分) ⑤ 14:30～15:30 (60分) ⑥ 15:40～16:40 (60分) 実技試験と講評
担当者からのお知らせ	実技時間では、以下のものをご用意ください。(更衣室がありますので着替えも可能です) 動きやすい服装・体育館シューズ・タオル・水分

講習の区分	選択領域
講習名	【C3】保育内容の研究・表現（音楽）
日程/会場	2017年8月9日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	教諭
主な受講対象者	幼稚園教諭
担当者	人間科学部現代子ども学科教授 南 曜子
講習概要	<p>以下の内容で行います。</p> <p>1時間目：保育内容・表現（音楽）の最近の動向</p> <p>2時間目：乳幼児期の自発的な音楽表現について</p> <p>3時間目：子どものリズム表現の指導法</p> <p>4時間目：子どもの歌の指導法と伴奏法</p> <p>5時間目：子どもの器楽合奏の指導法</p> <p>6時間目：試験と講評（試験には歌唱とリズム表現を含む）</p>
講習時間割	<p>① 9:00～10:00（60分）</p> <p>② 10:15～11:15（60分）</p> <p>③ 11:25～12:25（60分）</p> <p>昼休み</p> <p>④ 13:20～14:20（60分）</p> <p>⑤ 14:30～15:30（60分）</p> <p>⑥ 15:40～16:40（60分） 試験（歌とリズム表現を含む）・事後評価</p>
担当者からのお知らせ	<p>受講者は各自弾き歌いのための子どもの歌を1曲（コードネーム付き）準備してください。</p> <p>当日は、楽譜のコピーを2部（担当者用と受講者用）をお持ちください。</p>

講習の区分	選択領域
講習名	【C4】食指導における学校内外との連携
日程/会場	2017年8月3日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	栄養教諭
主な受講対象者	栄養教諭
担当者	生活環境学部食環境栄養学科准教授 北森一哉 生活環境学部食環境栄養学科講師 平田なつひ
講習概要	以下の内容で行います。 1時間目：食教育の必要性について 2時間目：食教育の課題について 3時間目：食教育の評価について 4時間目：学外との連携について① 5時間目：学外との連携について② 6時間目：試験と講評
講習時間割	① 9:00～10:00 (60分) ② 10:15～11:15 (60分) ③ 11:25～12:25 (60分) 昼休み ④ 13:20～14:20 (60分) ⑤ 14:30～15:30 (60分) ⑥ 15:40～16:40 (60分) 【担当者】①②③：北森 ④⑤⑥：平田
担当者からのお知らせ	特にありません

講習の区分	選択領域
講習名	【C5】学校における食育の推進
日程/会場	2017年8月4日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	栄養教諭
主な受講対象者	栄養教諭
担当者	生活環境学部食環境栄養学科教授 丸山智美 生活環境学部食環境栄養学科講師 清水彩子
講習概要	1時間目は学校での調理実習に活用できる調理科学について考究する。2～4時間目には、調理実習を用いた食育の実践例を交え実際に実習を展開し、実践方法について検討考察する。5時間目は、食育の展開の基礎となる子どもの食生活の実態について、特に学童期、思春期の特徴を考究するとともに「家庭科」、「体育科」、「保健体育科」における食に関する指導の展開について考える。6時間目に、試験と講評を行う。
講習時間割	① 9:00～10:00 (60分) ② 10:15～11:15 (60分) ③ 11:25～12:25 (60分) 昼休み ④ 13:20～14:20 (60分) ⑤ 14:30～15:30 (60分) ⑥ 15:40～16:40 (60分) 【担当者】①②③④：清水 ⑤⑥：丸山
担当者からのお知らせ	当日は、調理実習を行いますので、エプロン、三角巾、手拭用タオルをお持ちください

講習の区分	選択領域
講習名	【C6】子どもの食育指導に向けた食品・栄養代謝を考える
日程/会場	2017年8月9日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	栄養教諭
主な受講対象者	栄養教諭
担当者	生活環境学部食環境栄養学科講師 藺田邦博 生活環境学部食環境栄養学科講師 石田淳子
講習概要	1時間目には子どもの食事と食品について考える。2時間目と3時間目には、食育における子どもの理解を深めるための実践として、食品にまつわる実験を交えて検討考察する。4時間目と5時間目には、同じテーマで食事を食べた時の栄養体内代謝について実験を交えて検討考察する。6時間目には試験と講評を行う。
講習時間割	① 9:00～10:00 (60分) ② 10:15～11:15 (60分) ③ 11:25～12:25 (60分) 昼休み ④ 13:20～14:20 (60分) ⑤ 14:30～15:30 (60分) ⑥ 15:40～16:40 (60分) 【担当者】①②③：藺田 ④⑤⑥：石田
担当者からのお知らせ	

講習の区分	選択領域
講習名	【C7】質問会議を中核としたアクションラーニング
日程/会場	2017年8月4日 /会場：後日お知らせします
履修認定対象職種	教諭、栄養教諭、養護教諭
主な受講対象者	全教員
担当者	国際情報学部国際情報学科教授 長谷川元洋
講習概要	アクションラーニングは、現実の問題の解決策を個人・グループで問題の分析と解決策の立案を行い、その実行と振り返りを繰り返しながら、個人、チームの能力を高めていく学習法です。この講座では、教科教育、生徒指導、食育、保健指導、学校の組織マネジメント等の様々な問題を取り上げ、アクションラーニングの中核をなす「質問会議」の演習を行いながら、体験的に学びます。（「質問会議」は株式会社ラーニングデザインセンターの登録商標です。）
講習時間割	① 9:00～10:00 (60分) (講義) アクションラーニングについての講義 ② 10:15～10:45 (30分) (講義) 質問会議の行い方の説明 ③ 10:45～12:05 (80分) (演習) 教育現場の問題を取り上げた質問会議 (1) 昼休み ④ 13:05～14:25 (80分) (演習) 教育現場の問題を取り上げた質問会議 (2) ⑤ 14:35～15:55 (80分) (演習) 教育現場の問題を取り上げた質問会議 (3) ⑥ 16:05～16:35 (30分) (試験、アンケート)
担当者からのお知らせ	事前に「20代で身につけたい質問力」(清宮普美代 中継出版 ¥1,404円)、「質問会議 なぜ質問だけの会議で生産性が上がるのか?」(清宮普美代 PHP研究所 ¥1,296円)をお読みになることをお勧めします。